



加藤徳廣 議員

Q 危険な道路・側溝の 早急な対策を

A 経済性を考慮し優先順位を
決めて取り組んでいく

問 今、町道・側溝等は

至る所で損傷がひどく、住民特に足の不自由な方、お年寄りの方々に大きな支障をきたしております。

早急に手を打たないと後々改善には大きな費用がかかることとなります。町民の少しでも安全・安心のために交通量等も考慮し危険な順位を見極めて、手を打つ行政の思案が肝要であり、財源不足のこの時代こそ実施に向けて努力していただきたい。

また、町民の要望に対しても、住民は困っております。財源不足でありきではなく、町民の負託に心から応える対策にむけ前向きな指導と努力をお願いします。

答 滝口町長 特に車両

の通行、歩行上で支障をきたす危険な道路や側溝等については、現地を確認し緊急性の高い順に修繕を行っております。

大きな傷になる前に手を打つのは当然ですが、昨今の財政事情の中で苦情・要望等の積み残しも

かなりあるのが実情です。

高齢化社会、少しの段差で転んでも、それが致命傷となり寝たきりになつてしまう実情は肌で感じております。

今後はコスト縮減等経済性を考慮し危険度の判断、優先順位を決めて順次取り組んでまいります。



整備が必要な側溝

問 災害時の避難指示、避難勧告等の伝達態勢の現状について伺う。

答 滝口町長 (1) 本町の地域防災計画の情報通信連絡手段は、現在のどの程度まで整備されているのか。

(2) まだ整備されていないものは、今後どのような優先順位で整備を考えているのか。

(3) 現有の伝達手段を用いた「情報伝達訓練」をやっているのか。

不時の災害を想定した訓練が必要ではないか。

その際、避難指示、避難勧告の合図にサイレンを活用したかどうか。

(4) 情報伝達に関し、図上による研究あるいは訓練も不断にやっておく必要があるのではないか。

答 滝口町長 (1) チャ

イム放送、広報車9台、整備中の屋外拡声装置16基、防災行政無線50台等となっております。

(2) 防災行政無線は、お

を通じ、屋外拡声装置に一斉に情報を伝達する効果が大きなので、大きな河川付近及び水害の危険性のある地域の屋外装置を優先的に合計23基、次に

基地局を整備します。

(3) 地域的、部分的な訓練は実施しています。今

後は一斉にやるとか、あるいは新たなメニュー、例えば避難訓練にサイレンを活用する方向も考え

ます。

(4) 現在計画中です。



小丸 淳 議員

Q 住民への 避難情報 伝達態勢は

A 今後情報伝達強化に
努める



屋外拡声装置